

日本語複合動詞の韓国語化 —20世紀前後に韓国で発行された新聞を中心に—

金 芝媛

要旨

本稿は日本語複合動詞が名詞化して韓国に伝わった時期を特定するために調査を行ったものである。現在韓国語語彙体系のなかで漢字語は日本から影響を受けてきたものが多い。しかし、元々和語として使われている日本語が韓国では漢字語になる場合がある。このような和語には様々な種類があるが、ここではその種類を「日本語複合動詞」に限定し、いつ韓国に移入されたかを探ってみる。

キーワード：複合動詞、漢字語、新聞、引上類漢字語

1. はじめに

韓国では中国から多くの漢字語を取り入れてきたが、20世紀前後に、日本から多大な影響を受け、韓国語の一部として位置づけられることになる。日本から韓国に移入された漢字語について最初に言及した沈在基(1982, 1989)によると、韓国の漢字語は中国仏教文化からのもの、中国白話文からのもの、日本で作られたもの、韓国独自のものの、のと4つに分けられ、日本からの漢字語はさらに3つに分類される。中国で西洋語を漢字語に翻訳したものが日本でそのまま使われるもの、明治維新以前から独自に作られたもの、訓読みの漢字語を韓国漢字音で音読みするものである。韓国ではこの分類にそって漢字語の研究がなされてきている。

日本からの漢字語について研究を重ねてきた宋玟(1988)は、1880年代朝鮮政府から日本に派遣された日本修身史により日本から漢字語が本格的に移入され、それから韓国語の漢字語は中国より日本に近い形を有することになったと指摘している。彼は20世紀前後の韓国の文献に現れる新たな漢字語の中で、日本語が起源であるものを分類している(1998b)。崔景玉(2003)は戦前の韓国近代小説に現れる日本の漢字語が韓国に入ってきた時期とその経路について述べており、김지연(2011)は、「大韓民国官報」に現れる日本の漢字語を調べ、それらを品詞別に分類している。

このように多くの漢字語の移入や受容、成立が明らかになっている。しかし日本からの漢字語のなかで複合動詞など訓読みの単語が韓国に漢字語として普及した過程とその定着について述べている研究は少ないのが現状である。本稿は複合動詞からきた韓国漢字語に研究対象を特定し、その移入時期について調べたい。

2. 本稿で扱う「引上」類漢字語

今回の調査では、複合動詞のなかで韓国漢字語になったものに研究対象を限定した。複合動詞の中には韓国に移入されたものもあれば、そうではないものもある。調査のために

は韓国に移入された複合動詞を把握することが必要である。それを分類するために、まず『新明解国語辞典』（三省堂2005、第6版）（初版1972）から複合動詞を採集した。その結果、複合動詞は三つの形態に分かれた。

- ① 漢字二字に送り仮名が付いている（引き上げる）
- ② 後ろの漢字一字に送り仮名が付き、前項動詞と後項動詞全て動詞の語幹である（見慣れる）
- ③ 後ろの漢字一字に送り仮名が付き、後項動詞は動詞の語幹として機能するが、この漢字語はその機能を持たない。（片付ける）

次に、採集した複合動詞の送り仮名をとった二字漢字にしたものと、『韓国語大辞典』の二字漢字が一致するものを調べたところ、42個の語が出てきた。これらは日本語では語幹が漢字で語尾が送り仮名の訓読みのものであるが、韓国語では送り仮名をとった形の二字漢字であり、二音節の音読みに読まれる。

・引き上げる → 引上(insang)¹

本稿では、これらの語を普通の漢字語と区別するために「引上類漢字語」と呼び、研究対象とする。

3. 複合動詞が韓国に漢字語として移入された時期

複合動詞が韓国に伝わった時期を特定する作業を行った。

ここでは、19世紀末から21世紀初めにかけて書かれた韓国発行の新聞を通して、引上類漢字語の現れの推移を特定する。

3.1 調査① 1890～2010年の複合動詞からの漢字語の推移

日本から漢字語が本格的に入ってきたのは、19世紀後半、特に政府レベルで官吏を日本に派遣し、日本の近代文明を体験して積極的に韓国に取り入れようとした1880年代からだと言われている。引上類漢字語もその前後に取り入れられた可能性が高いが、詳細は知られていない。その移入時期を探るために調査を行った。

参照した新聞は「漢城新聞」1900年10月4日、「毎日新報」1910年10月2日、1920年10月2日、1930年10月2日、1940年10月2日 「東亜日報」1950年10月4日、1960年10月2日、1970年10月2日、1980年10月2日、1990年10月4日、2000年10月2日、2010年10月2日、各4ページである。

参考になった新聞が3種類である理由に、19世紀末から戦前までは新聞が廃刊になることが頻繁にあったため、一つの種類の資料を手に入れることが難しかった点が挙げられ

¹ 韓国語表記はyale 表記法に従う

る。²

新聞で取り出した引上類漢字語の述べ数と異なり数は以下のようになる。

表1 引上類漢字語の異なり語数と述べ語数³

発行日付	異なり	述べ	引上類漢字語(数字は重複した回数)
1900	1	1	奪取
1910	12	14	組合(2) 引換(2) 送付 引渡 乗組 逃去 呼出 申訴 見失 組立 取扱 買入 買売 引換
1920	22	46	吸取(2) 取締(4) 引換(3) 割引(2) 振替(6) 取引(2) 取扱(2) 引上(5) 買入(6) 組合(2) 取入 結合見出 買上 吸入 受渡 差出 払戻 売買 探堀 入来 継出
1930	10	26	引受(5) 借替(2) 貸付(6) 引下(6) 借替(2) 据置 買入 捻出 引換 取締
1940	13	33	取扱(2) 取締(6) 組合(8) 振替(2) 届出(2) 申立(3) 取締 支払(2) 受取 引受 振出3取調 申込
1950 ⁴	0	0	
1960	17	26	割引(2) 取扱(4) 引受(5) 売渡 振替 組立 投売 出回 進捗 売渡 貸出 引継 請負 買入 引上2 払下
1970	11	31	引上(5) 取扱(6) 取消(2) 見習(2) 買入(4) 貸出 切下 貸付 売渡 組合
1980	12	20	引受(3) 売渡(2) 買入(2) 組立(3) 取扱(2) 貸出(2) 割当 売 出 取扱 黙過 積立
1990	4	4	追求 悔改 上回 聴取

² 戦前に発行日数が比較的長かった新聞は『毎日申報』1社のみ(1910-1945)である。『毎日申報』は朝鮮総督府の官報である。『皇城新聞』(1898~1910.9)は各国の近代化した文明を国民に紹介し国民意識を啓蒙させ、韓国内外のことを知らせるために作った新聞である。『東亜日報』は1925年から発行され現在も読まれている韓国の代表的な新聞である。新聞の性格は各々異なるが、複合動詞からの韓国漢字語の100年間の大まかな推移をみるため3つの新聞を対象とする。

³ 太陽コーパスを使って複合動詞ではないことばは除外した。

⁴ 1950年は引上類漢字語は見られなかった。当時朝鮮戦争が起ったために戦争の成り行きや軍関連の記事が圧倒的であったこと、新聞の枚数が2枚であったこともあり、引上類漢字語が登場しなかったと思われる。

2000	3	4	貸出 (2) 買入 浮上
2010	8	12	組合 (3) 組立 (2) 投入 (2) 浮上 切上 取消 割引 乗合

次は表1を参考に10年前は見られなかったが、10年後新たに登場した引上類語を載せた表である。

表2 引上類漢字語のなかで以前はみられなかった語が新たに登場したものの割合

発行日付	総数	新語数	百分率 (%) ⁵
1900	1		
1910	14	14	100
1920	25	22	88
1930	9	6	66.7
1940	11	7	63.6
1950 ⁶	0	0	0
1960	18	9	50
1970	12	4	30
1980	11	4	36.4
1990	3	3	100
2000	3	1	30
2010	8	2	25

表1で、1900年代の新聞からは引上類漢字語が特にみられないことから、当時日本からの引上類語の移入が本格的ではなかったと思われる。1920年代は引上類語の数が1910年に比べて急に増えており、金融・法律・商売など専門分野で多数見られる。しかし1920年の述べ46、異なり22という数値と1910年の述べ14、異なり12という割合を見ると実際新たな引上類漢字語が出た割合は1910年が高い。一見1920年に引上類漢字語の割合が一番高いように見えるが、実は1910年に新たに登場した単語の割合が高い。これは引上類漢字語が1910年を前後に広まった可能性を示唆する。

年度を重ねていくと記事のテーマが経済や社会関係、広告などの特定分野の記事になる

⁵ 百分率 = $\frac{\text{○と□を合わせた数}}{\text{対照年度新聞から取り出した漢字語の全体ことなり語数}} \times 100 = (\%)$

⁶ 1950年は引上類漢字語見られなかった。当時朝鮮戦争が起ったために戦争の成り行きや軍関連の記事が圧倒的であったこと、新聞の枚数が2枚であったこともあり、引上類漢字語が登場しなかったと思われる。

ことが多いようである。また「取扱」、「引上」、「貸出」、「引下」、「引受」、「割引」など100年間ずっと新聞で見られる語も現れる。10年おきにしか見ていないため断定は難しいが、引上類漢字語の使われる文脈が定められていくように思われる。引上類語数は1900年から1910年の間急激な増加をみせている。

3.2 調査② 1898年から1910年までの複合動詞の推移

調査①では、10年前と比べて引上類漢字語が大幅に増加するのは1910年である。少なくともこの時期を前後にこれらの語が韓国に移入され、知識人によって発行される新聞に出ることで、新聞の読者が引上類漢字語を知るようになった、ということを裏付けると思われる。

1910年は朝鮮が日本の植民地になって韓国では社会的に日本からの影響に関して大きな変化が起きた年である。調査①で、1890年と1900年に登場した単語数に比べて1910年に急激に増加していることもその歴史的な事実と無関係ではないであろう。1900年から1910年の間に引上類漢字語に関する人々の認識と、言語生活における引上類漢字の位置づけにある種の変化が起きたのだと思われる。

しかし調査①だけでは1900年と1910年の間の推移について詳しく特定することができない。調査②では引上類漢字語が現れたもっと正確な時期を知るために、1910年度の単語の急激な増加に注目して、調査①の再調査を行った。この調査では、単語が出現した時期をより正確に特定するために半年ごとに新聞1紙を用い、10月12日と4月12日を基準とした。古文書であるため遺失した日付の新聞があること、当時の韓国の社会的な状況で新聞の発行と廃刊が頻繁にあったこともあり、4月12日と10月12日の新聞を見つけられない場合、基準から一番近い日付に存在する新聞を使用した。

複合動詞の二字漢字と韓国新聞の現れる引上類漢字語が一致しても、偶然形態が一致しているだけで複合動詞から韓国に伝わったとは考えにくく、それ以前から使われてきたものがある可能性もある。そのようなものが資料に入っているかを知るために、韓国の古文に書かれた単語を検索できる「韓国歴史情報統合システム」⁷の検索シソーラスに、新聞から取り出した単語を入れ、1800年以前の文献に引上類漢字語が載っているかを調べた。1800年前の文献に書かれた単語は日本から漢字語が韓国に移入され始めた20世紀前後より前から使われたものだと考え、複合動詞から移入された可能性は低いと判断した。従ってシソーラスに検索されたものは表の述べ数の他に分けて表示した。

3.2.1 『漢城旬報』 + 『漢城周報』での現れ方

『漢城旬報』と『漢城周報』は全文が漢字で書かれた、韓国で最初に発行された近代新

⁷韓国歴史の古文書がデータベース化され、シソーラス検索ができるようになっているサイト

聞である。『漢城旬報』は朝鮮の政府により国民に近代的文物を紹介し国民の啓蒙を図ると共に、国内や国外情勢を知らせるために発行された新聞である。1883年10月1日から1884年12月まで政府の統理衙門（1882年設置された朝鮮後期の外務担当の行政機関）博文局で月3回発行された。甲申政変（1884）により博文局（1883年に設立された朝鮮後期の出版機関）が破壊されて印刷する施設が機能を失ったため廃刊されたが、後に施設が再整備されて1886年1月25日から『漢城周報』として発行が再開された。『漢城周報』は週1回発行されたが1888年7月7日博文局が廃止されたため廃刊された。現在のような日刊新聞ではなく冊子形式であるをしていること、朝鮮政府の動向を国民に知らせるといった目的も持っていた官報であったことから、両新聞は同じ種類のものと見たほうがよいと考え、同時に調べた。官報という性格上、この新聞の載った単語は官僚層のなかで容認されて使われていたことと思われる。

以下は日本語複合動詞と漢字二字が一致する韓国漢字語の有無を調べた結果である。

表3 『漢城旬報』と『漢城周報』に現れた引上類漢字語

発行日付	のべ数	ことばの種類	1800以前
旬報1883. 10. 31	0		
1883. 12. 9	0		買入
1884. 4. 16	0		掘出
1884. 10. 9	0		書出
周報1886. 4. 26	0		突入 奪取
1886. 10. 11	0		
1887. 4. 11	0		
1887. 8. 1	0		
1888. 1. 23	0		受取
1888. 2. 6	1	貸付	

表3では、1883年10月31日から1887年まで日本語複合動詞から入ったと思われる語は現れていない。1888年2月6日に出ている「貸付」は確かに『漢城周報』8頁に登場するが、韓国の情勢について述べた記事ではなく、「東京図書館で人々が借りる本の種類と借りている人数を日本の文部省が調査したこと」について記事で述べているので、「貸付」が当時韓国社会に完全に定着して使われていたのかどうかは不明である。「貸付」は『韓英字典』（1911）に登録されていないことからすると、『漢城周報』に一度載っただけで民衆には広がっていなかったことばである可能性もあるが、新聞に書かれているため、述べ数を1とした。

1888年に「貸付」が現れるが、全体的に引上類漢字語はほとんど登場しない。複合動詞と

同じ漢字語が若干出てくるが、シソーラス検索で1800年前に使われた語が出てくるので、日本から単語が移入され始めた時期より以前から単語が使われてきたことがわかる。これらは日本から直接移入されたものというより、中国から伝わった語である可能性がある。当時はまだ複合動詞が韓国語語彙体系に与えた影響はそこまで大きくはない時期であったと思われる。

3.2.2 『皇城新聞』

『皇城新聞』は1898年9月5日に創刊され1910年8月29日韓国が日本の植民地になったあと、朝鮮総督府により強制的に『皇城新聞』に変えられながらも発行を続けるが、9月14日に廃刊した新聞である。日刊新聞であり、列強が韓国に押し寄せてくる大変な状況下、国民に国内の情勢を知らせ啓蒙する目的で刊行された。文は主に漢字を中心とし、漢字のかたわらに付けてその文法的関係を示すためにハングルを併用しているのが特徴である。漢学の知識層から支持された。『帝国新聞』と共に1898年から1910年まで長い間国民に民族的意識を強く訴える一方、文明開化の先駆者として多大に貢献した新聞である。1898年から1910年の間1年に2誌ずつ単語を取り出した。

『帝国新聞』は1898年8月10日発行を始め、1910年8月2日廃刊された。『皇城新聞』とともに朝鮮末期の代表的な民族主義の民間新聞である。19世紀末当時にまだ前近代的な生活慣習と思考に止まっていた民衆を啓蒙し、外国に対抗できる民族精神を唱えるには新聞の役割が重大であるという考えから、中流階層から下の民衆までを対象に創られた。『皇城新聞』と同じく日刊新聞でありハングルだけで書かれたハングル新聞である。1年2紙、10月12日・4月12日を中心に調査した。

『帝国新聞』はソウル大学校図書館に所蔵されているが、現在古文書整備中であるため1902年8月分までしか観覧することができない。そのため『帝国新聞』の1902年に継いで「大韓毎日申報」から単語を取り出した。『大韓毎日申報』を資料として使用した理由は、『帝国新聞』と同じくハングルで書かれている新聞でありハングル新聞のなかで比較的発行された期間が長いこと、『皇城新聞』とほぼ同じ時期に新聞が廃刊されたこと、国民の近代的知識を広めて世界各国の進歩した文化を導入することで国難を打開する方法を探るなど、その性格が一致するからである。

まず『皇城新聞』から複合動詞の漢字と韓国新聞の漢字が一致する単語を取り出した。形が一致するだけで1800年以前から使用された単語であるかを区別するために、韓国歴史情報統合システムを使った。

表4 『皇城新聞』に現れた引上類漢字語

発行日付	述べ	記事	広告	ことばの種類	1300-1800
1898. 9. 12	1	1	0	買入	書下
1898. 10. 12	0	0	0		
1899. 4. 12	0	0	0		
1899. 10. 12	1	1	0	借受	
1900. 4. 12	0	0	0		
1900. 10. 12	4	4	0	見習(3)	突出
1901. 4. 12.	0	0	0		押上 突入
1901. 10. 12	0	0	0		見失(2) 差出
1902. 4. 12	1	1	0	引下	突出 引延
1902. 10. 11	0	0	0		差出
1903. 4. 11	0	0	0		売買
1903. 10. 12	3	1	2	請負 買入 雇入	売買(2)見失(2) 買去
1904. 4. 12	0	0	0		
1904. 10. 12	0	0	0		奪取
1905. 4. 12	0	0	0		見失
1905. 10. 12	3	2	1	浮上(2) 貸出	見失 押上(2)
1906. 4. 12	5	2	3	引継(2) 取扱 割引(2)	積立
1906. 10. 12	7	1	6	買入 貸出(2) 割引(3) 組合	見失
1907. 4. 12	3	0	3	割引(3)	押上 突出 積立
1907. 10. 1	5	1	4	取扱 組合(2) 貸付 割引	差出 書出 積立
1908. 4. 12	10	5	5	買上 繰入(4) 組合 割引(3) 買入る 取扱	
1908. 10. 11	3	1	2	貸付(2) 取締	
1909. 4. 11	7	4	3	取扱(2) 取下 引換 組合 貸下 買受	
1909. 10. 12	3	1	2	取締 引換(2)	突出
1910. 4. 12	10	2	8	買入 組合 売渡(2) 割引(2) 引換(3) 買受	奪取
1910. 9. 14	13	4	9	取扱 据置 取締 割引(6) 引換(2) 振替	突入 積立

表4では、1905年以前と以後の引上類漢字語の在り方が分かる。1898年から1904年の間は、1898年、1899年、1900年、1902年、1903年の5回しか引上類漢字語が現れていない。単語が現れた時期も一定ではなく、その数も少ない。しかし1905年からはずっと引上類漢字語が見られ、その種類も豊富になっている。

引上類漢字語は広告、特に商売・売買関連が数多く見られる。主に銀行などの広告が高い割合を占めている。1905年は日本資本の広告、1906年韓国人資本で建てられた大韓天一銀行の広告、1906年郵便局の出資、1907年漢城銀行、債券・株式売買所・合資商会、1910年第一銀行などである。これらのほとんどは決まった単語がセットになることが多い。その種類は「引換-代金-小包」、「振替-貯蓄-口座」、「割引-郵便-取扱」である。このように引上類漢字語は記事より広告のほうによくみられる。

また当時漢字で書かれた日本語は、それが訓読みであっても平仮名の発音そのままではなく韓国漢字音として発音されたことが新聞の例でわかる。⁸これをみると日本の地名を韓国語の音読みのまま読んでいたことは明確であり、当時すでに韓国では日本語の訓読みを韓国漢字音に化して読んでいたと推定できる。複合動詞も当時韓国漢字音として呼ばれていた可能性が高い。

3.2.3 『帝國新聞』（『大韓毎日申報』）

次はハングル新聞である「帝國新聞」と「大韓毎日申報」から年度別に取り出した単語の数を表にしたものである。

表6 『帝國新聞』と『大韓毎日申報』に現れた引上類漢字語

	のべ数	記事	広告	ことばの種類	1300-1800
1898. 12. 12	0	0	0		
1898. 8. 12	0	0	0		
1899. 4. 12	0	0	0		

8 1902年の広告「대일본동경주식회사촌정형제상회(大日本東京株式会社村井兄弟商会)」「주식(株式)」などがその例である。1910年の記事では「長崎가 熊本이 佐賀가 大分이 宮崎가 愛媛이 福岡이 徳島가 山口가 岡山이 鳥取가 京都가 島根이 兵庫가 大阪이 高知가 愛知가 千葉이 石川이 福山이 福井이」と書かれている。これらは「日本の地域と韓国語の助詞이 (i) /가 (ka)」の組み合わせでできている。韓国語はバッチムがある字は「이」をバッチムがない字は「가」をつけることが原則となっているからである。平仮名読みだと「ナガサキ、クマモト」などほとんどバッチムがない発音になるため「가」がくるはずだが、韓国語の原則によって「이」もしくは「가」に分かれるということから、当時は日本から入った言葉が音読みで呼ばれていたことがわかる。

1899. 10. 12	0	0	0		
1900. 4. 12	0	0	0		
1900. 10. 12	0	0	0		
1901. 4. 12	0	0	0		押上
1901. 8. 27	0	0	0		
1902. 8. 11	0	0	0		
1902. 10. 11	1	0	1	買求	
1903					
1903					
1904. 8. 12	0	0	0		
1904. 10. 12	0	0	0		
1905. 3. 9	0	0	0		
1905. 1. 12	0	0	0		
1906					
1906					
1907. 5. 23	0	0	0		
1907. 10. 12	0	0	0		
1908. 4. 12	0	0	0		
1908. 10. 11	0	0	0		
1909. 4. 13	1	1	0	組合	積立
1909. 10. 12	1	0	1	割引	
1910. 4. 12	1	0	1	割引	突入
1910. 8. 17	2	0	2	引換2	奪取 突入

この表では1902年に一度引上類漢字語が現れるが、1898年から1908年まで引上類漢字語が新聞に現れない。1909年からはずっと見られるが、その数は少ない。

『皇城新聞』の〈表5〉と比べてみると語数の差は明らかである。〈表5〉では1904年以前も引上類漢字語が少し見られ、1905年からそれが大体増加する傾向を見せている。引上類漢字語の種類も多様であるに対して〈表3〉は同じ韓国の新聞であるにもかかわらず、単語が持続的にみられる時期が〈表5〉より遅く、単語自体も少ない。

『帝国新聞』でも『皇城新聞』と同じく日本語の音読みが見られる。⁹

9 1899年「일본대판 (日本大阪)」1900年「일본의유명한소림의원 (日本の有名な小林医院)」1909年「이동공작 (伊藤侯爵)」1910年「군마현기옥현천엽현신내현정강현자성현삼중현궁성현북도현추전현 (日本の県名)」韓国漢字音そのままになっている。

4. まとめ

調査結果から分かることは以下の2点である。

第一に、日本から伝わったとされる漢字語は早ければ1880年代の文献に登場しているが、引上類漢字語はそれより遅れて韓国に移入され、実際多数の人に使われるようになったのは1905年前後だと思われる。『皇城新聞』の調査では、1898年から1905年まで引上類漢字語が若干みられるもののその数は一年に一つあるかどうかである。1905年から1910年まではその数も増え、種類も多彩である。1900年代初めごろは韓国に入ったもののまだ新聞にのるほど広まっていなかったと思われる。1905年からは漏れずに新聞に登場しているのを見ると、少なくとも新聞の読者層には引上類漢字語がよく使うことばとして理解されていたようである。

第二に、第一で言っている多数の人は新聞が読める読者層であり、民衆のなかで使われるようになったのは、『皇城新聞』で引上類漢字語が現れた時期より遅れている可能性が高い。『帝國新聞』、『大韓毎日申報』には1898年から1908年までは引上類漢字語がほとんど見られない。その推移は『皇城新聞』の調査結果と比較すると明らかである。

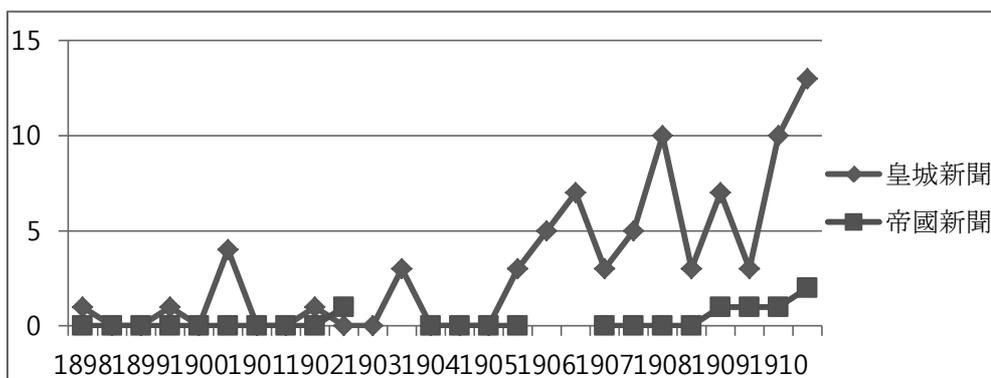


図1 1898年から1910年まで各新聞に現れた引上漢字語の数の変化

1909年と1910年は引上類漢字語が現れるが数が少ない。「帝國新聞」と「大韓毎日申報」の主な読み手が漢字がよくわからないハンゲルが読める民衆であったことを考えると、引上類漢字語は最初に漢字の読み書きができる人によって伝わり、漢字がわからない民衆に徐々に浸透していく段階性を含んでいたと思われる。

今回の調査によって、他の韓国漢字語より遅れた1900年代後半に引上類漢字語が韓国に定着したと見られる結果が出たこと、引上類漢字語が定着する過程で階層による段階性が見られることがわかった。

しかし資料が新聞に限定された点、新聞の数が1年に2日分であった点からすると、今回の調査結果はあくまでも時期特定の試みとして、ある傾向を示すものであり、より膨大な量の資料を用いた調査が必要である。それは今後の課題としたい。

参考文献

- 崔景玉 (2003) 「開化期外來翻譯漢字語의 受容: 『은세계』 (1906) 를 중심으로」 日本學報 Vol.55 No.1
- 김지연 (2011) 「대한제국관보 (大韓帝國官報) 에 나타나는 일본어 어휘와 그 수용실태에 대하여=日本語學,日本語教育學篇: 大韓帝國官報に現れる日本語語彙とその受容方法について」 日語日文學
- 이응호 (1975) 『개화기의 한글운동사』 성청사
- 沈在基 (1982) 『국어어휘론』 집문당
- (1989) 「漢字語 受容에 關한 通時的 研究」 국어학 Vol.18 No.-
- 宋 敏 (1988) 「국어에 대한 일본어의 간섭」 국어생활 Vol.-No.14
- (1998b) 「開化初期의 新生漢字語 受容」 語文學論叢 Vol.18 No.-
- 韓国歴史情報統合システムサイト <http://www.koreanhistory.or.kr>
- J.S.Gale (1911) 『韓英字典』 耶穌教書會
- 国立国語院編 (2000) 『標準国語大辞典』 東亜出版社
- 山田忠雄ほか (2005) 『新明解国語辞典』 (第六版)三省堂
- 『漢城旬報』 1883.10.31 1883.12.9 1884.4.16 1884.10.9
- 『漢城周報』 1886.4.26 1886.10.11 1887.4.11 1887.8.1 1888.1.23 1888.2.6
- 『皇城新聞』 1898.9.12 1898.10.12 1899.4.12 1899.10.12 1900.4.12 1900.10.4
1900.10.12 1901.4.12 1901.10.12 1902.4.12 1902.10.11 1902.4.11
1903.4.11 1903.10.12 1904.4.12 1904.10.12 1905.4.12 1905.10.12
1906.4.12 1906.10.12 1907.4.12 1907.10.1 1908.4.12 1908.10.11
1909.4.11 1909.10.12 1910.4.12 1910.9.14
- 『帝國新聞』 1898.8.12 1898.12.12 1899.4.12 1899.10.12 1900.4.12 1900.10.12
1901.4.12 1901.8.27 1902.8.11 1902.10.11
- 『大韓每日申報』 1904.8.12 1904.10.12 1905.1.12 1905.3.9 1907.5.23 1907.10.12
1908.4.12 1908.10.11 1909.4.13 1909.10.12 1910.4.12 1910.8.17
- 『每日申報』 1910.10.2 1920.10.2 1930.10.2 1940.10.2
- 『東亜日報』 1950.10.2 1960.10.2 1970.10.2 1980.10.2 1990.10.2 2000.10.2
2010.10.2